

会報

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

N.O. 71

Forum for Furusato Kasugai Studies

2019.11.29 発行

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

編集責任者：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

第71回 「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ 『ふるさと春日井のまちづくり』

－上街道と味美の成立－

岩田鎮人氏(生涯教育講座講師)による春日井西部地域のまちづくりについて報告をい





ただきました。参加者は34名、二子町など地元の方が多く参加されました。

講師：岩田鎮人氏

会場風景

上街道について説明する岩田さん㊨春日井市春見町のささえ愛センターで

知多町一^回を招いて講演会を開いた。演題は「上街道と味美の成立」。市西部を通る上街道は江戸時代以後、尾張藩の武士が通るために名古屋と中山道を結んだ藩営街道だったと岩田さんは説明した。「街道から広がるよう味鋤^{あじくわ}一帯の開拓が進んでいった」と述べた。

また、「味美」という地名は「用水路の整備で、それまで不作だった味鋤に美田が広がった」とから付いたと考えられる」と持論を紹介した。

フォーラムはまちの歩みを伝えることを目指しており、この日は市民ら三千人が岩田さんの軽快な口調に笑いを誘われつつ聞き入った。

春日井で講演会
尾張藩士が通つた
上街道の歴史学ぶ
・岩田鎮人さん(左)・同市

中日新聞（2019.11.4）記事

2019年度までの10年間の「春日井市都市計画マスターplan」では、「駅勢圏」を基本とした。「地域別構想」では5地域をあげ、JR勝川駅、春日井駅、神領駅、高蔵寺駅に続いて、名鉄春日井駅、牛山駅周辺を加えて7地域があげられています。ただし、牛山駅は「西部地域」に位置づけられ、鷹来とくくった扱いをしています。県営名古屋空港と名鉄小牧線とを活用した交通の利便性を活かした住宅地と、それと調和させた産業地の創出を狙っています。名鉄味美駅周辺は「南部地域」に位置づけられ、JR勝川駅とくくった水害などの災害に備えた安全な、駅周辺の魅力あるまちづくりをするとしています。地域別構想は、「整備プログラム」を作成し、段階的なまちづくりを推進するとしています。実現に向けて、地域、事業者が行政と協働するまちづくりをすることとしています。



岩

田

鎮

人

書

平成八年度知事印長 岩田鎮人書
大正十年東京市長幹木竹産詠

亭子下日輪寺度樹雲草花重い鐘鳴

八 日輪寺の晚鐘

水蘇水^ト通前松は後松^ト連ねる八田川

七 八田川の或船

中野。原野暮小雪^ト望も人馬。景方^ト空

六 中野暮雪

風起ち草葉^ト秋雪す^ト行麻^ト片^ト満^ト落^ト葉^ト落

双^ト月出^ト松樹^ト有^ト老龍王^ト身^ト如^トえ

四 二子塚。秋月

雨^ト一絆。水風生^ト自ら微^ト火空持^ト飛^ト

三 十 丁橋。螢火

白山平野^ト走^ト林樹醫薦^ト有^ト而余綠滿^ト清^ト

二 白山の新緑道^ト聞^ト古松^ト外^ト山^ト鳥^ト一声聞^トか

岩田鎮人氏は、「上街道と味美の成立」を資料3頁に要旨をまとめ、39コマのスライドを使って話をすすめられました。写真撮影は天台宗光雲山日輪寺の輪田住職が撮影されたもの。住職は二子町若旦那の会を組織し、YouTubeに投稿し、まちづくりに貢献している。

味美のまちは

● の道

上街道にはじまり

白山神を祀り

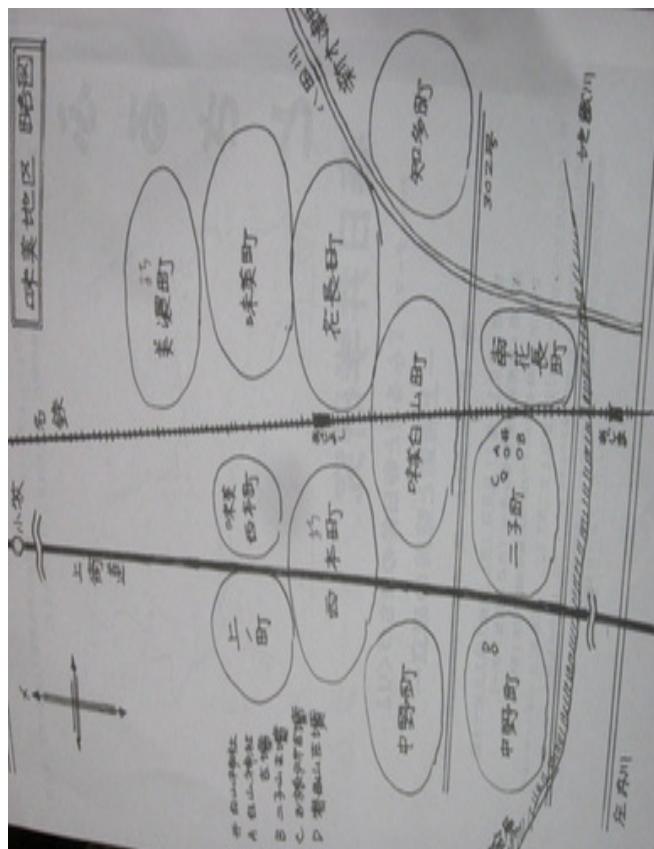
新木津用水に

育まれ成立した。

「味鋺原八景」は大正10年9月に東春日井郡長となった鈴木寿三郎(号竹屋)が漢詩にしたもの。講師の岩田氏が書にしたもの(写真)があるが、注)「郷土史かすがい28号」に伊藤浩氏の解説が載る。上街道は名古屋城が築城された1612年に工事が始まり、1623年頃に完成した。家康が付家老成瀬隼人正に命じて作らせた。初代藩主義直は16歳で藩主となった。藩主脱出用ともいわれる。大曾根・黒川・瀬古にかけては湿地帯であった。武士専用の「落雷公道」であった。清水口→味鋺→味美→小牧→善師野→土田→中山道に出て、伏見や江戸に通じる。江戸へは、東海道ではなく、中山道経由を選んだ。中山道は木曽まで尾張藩で安全で、犬山城までの簡便で、軍事物資の輸送に役立つ。

上街道は道幅6m、土手90cmで、杉並木は日陰をつくり、追撃防止に役立つ。小牧、善師野、土田には本陣が置かれた。万全の防御を施していた。

2. 上街道の沿いの開発は、農民の移住を奨励し、「尾張徇行記」には「酒屋・質屋・宿屋・農商あり」と書かれている。味鋺原新田は明治22年に味美と改称された。味鋺原の「味」と美田の「美」をとって名付けたという。新田開発は竹腰山城守が指揮して荒野が開墾された。知多郡から移住してきたところが知多屋敷や知多町として名が残り、海部郡花長村から移住したところが花長町、美濃国河合村から移ったところが美濃町、海東郡から移ったのが西街道の名を残す西本町である。以上4ヶ村である。その後、稻置街道(上街道)ができる、南北の交通が激しくなり、新木津用水の開鑿(1664年)前後に、さらに各地から開拓者が移り住み、1986年の新木津用水大改修とともに一帯の耕地が美田となった。味美は現在、(味美上ノ町)、上ノ町、美濃町、味美町、中野町、二子町、中新町に加え、西本町、味美白山町、花長町、知多町の11の地域をいう。()は分割。



3. 上街道の神社や寺のにぎわい...スライドに白山神社、日輪寺、郷社味鋺神社、味鏡山護国院の写真が映されている。10月の白山神社(5級社、別当寺は日輪寺)の勧請(かんじょう)行列では白山神社の旗の後を氏子や稚児が御旅所古墳まで行列する。勧請は仏教用語で、神仏習合の名残り。別当は神前読経し、祭祀も仏式で行う。別当がいる寺を別当寺という。白山神社には菊理比売命、白山古墳にあった物部社の**物部の祖神**の可美真手(うましまて)命などを合祀し祭神とする神社で名古屋市北区味鋺村**白山藪**より1660年に遷座した。**白山神社**

大祭は10月である。白山社の幟をかざしておみこしを引き歩く。この地域の人々が集う賑わいが白山神社を中心におこなわいる。7月には**総天王祭**が行われ、味美の11町の数の提灯が中心の柱から放射して山形に掲げられる。もっとも人が集まるのは歳旦祭で、除夜から歳旦にかけて、屋台も出て参詣が多い。この地は、**味美古墳群**と寺社が一体となって魅力を作っている。まちづくり・賑わいづくりの核となるものが豊富にある。

1. 新木津用水の開鑿と大改修で、愛知県土木課長の**黒川治愿**(はるよし)の頌徳碑が建つ。彼のおかげで、川幅が11mに拡張され、美田が広がった。上ノ町・下屋敷・中新田が独立する。
(記録：塚田忠雄)

OPINION(編集後記にかえて)

『ふるさと春日井のまちづくり』構想（中間報告）

春日井市都市計画マスターplanが2020年～2030年に向けてはじまります。市民が望む将来構想が集約されました。春日井の未来のかたちづくりがはじまります。

『第六次総合計画』の主題「地域資源＝強み」を活かした『まちづくり』に期待したい。

春日井市都市計画マスターplan地域懇談会（まちづくり推進部都市政策課）の第2回地域懇談会（平成30年12月16日(日)）における（「地域別構想」の作成に向けて「将来の方向性」）から、現時点における地域住民の意識がわかります。『春日井市都市計画マスターplan地域懇談会実施報告書』（2019年4月春日井市）参照。

◎JR勝川駅・名鉄味美駅周辺エリア（中学校区：味美、知多、中部）

※JR勝川駅や名鉄味美駅などの鉄道駅は、地域の皆が利用する重要な拠点であるため、魅力的で便利な場所になって欲しい。※神社や公園など地域が誇る資源を活かした地域の交流が続き、住みやすい生活環境が続いている街になって欲しい。※通学路の安全対策や街路灯の設置など、安全に歩ける歩行空間を整えて欲しい。

◎JR春日井駅・市役所周辺エリア（中学校区：中部、柏原、東部、松原）

※JR春日井駅は、多くの人々が行き交う中心的な拠点であるため、魅力的で回遊したくなる場所になってほしい。※「書のまち春日井」を活かしたまちづくり※一部の地域では、空き地・空き家が増加しているため、まちづくりと一体的な活用を図ることで、地域に新たな魅力をつくっていきたい。※庄内川や内津川、八田川河川沿い地域は基盤整備により防災対策を進めるほか住民の防災意識を高める取り組みを進めたい。

◎JR高蔵寺駅・高蔵寺ニュータウン周辺エリア（中学校区：高蔵寺、藤山台、岩成台、石尾台、高森台）

※緑も豊かで公園も多く、自然が身近に感じられる環境は、次世代へ向けて守り受け継いでいくべき本地域の資源だと思う。※今後増加が懸念される空き地や空き家は、地域のコミュニティを創出する場として転換を図りたい。※JR高蔵寺周辺の活性化を図るとともに、バスの拡充や自転車道の整備など交通環境が整った街になって欲しい。

◎坂下エリア（中学校区：坂下）

※最寄りの駅であるJR高蔵寺駅や病院などへ行き来できるコミュニティバスの運行充実した地域になってほしい。※地域に広がる農地は、誇れる資源として有効に活用し続けられるよう、担い手の確保や、地域で守ってゆく取り組みをすすめていきたい。※神社や神事など、地域が誇る伝統文化は、地域のコミュニティ維持にもつながるため、行政との協働によりより守っていきたい。

◎春日井IC周辺（中学校区：松原、南城）

※身近に広がる農地やふれあい緑道などの自然豊かな環境は、この地域の誇れる資源として守っていきたい。※一般国道155号をはじめ、日常的に渋滞する幹線道路の交通円滑化を図り、安全で快適な交通環境を整えてほしい。※高齢化が進むなか、自転車に乗れない住民でも安心して鉄道駅や主な施設まで行き来できる交通手段が確保された街になってほしい。

◎名鉄春日井駅周辺エリア（中学校区：西部、鷹来）

※名鉄春日井駅などの鉄道駅は、地域の皆が利用する重要な拠点であるため、安全で安心して利用できる場所になってほしい。※子供やお年寄りなど、自転車に乗れない人でもバスなどで移動できる便利な交通環境が整っている街になってほしい。※農地や公園などの身近に感じられる緑や、地域に根付く伝統・文化を重んじ、それら資源を活用して交流が盛んな街になってほしい。

◎ＪＲ神領駅・中部大学周辺エリア（中学校区：南城）

※地域内に中部大学が立地している強みを活かし、地域住民と学生が助け合いながら共生できる、活気あふれる住宅地になって欲しい。※川沿いの親水空間や緑道などの身近に感じられる自然は良好な住環境を形成している重要な要素となっているため、しっかり保全していくべきである。※通学路や公園の安全性を高めるなど子育て世代に安心して暮らせる環境を築いていきたい。以上をまとめると

- ①暮らしの安心・安全のための環境整備（コミュニティバス、幹線、地域線道路、自転車道路の渋滞改善・整備）
- ②地域の活性化（祭り、伝統行事、神事など地域文化・歴史資源の活用、空き地、空き店舗、空き家の再利用、商店街の活性化）
- ③地域の緑、景観の保存（農業の振興、自然資源の活用と保全）

等に集約されるのではないでしょうか。

これらの具現化は、何よりも地域の人たちによる主体的な「まちづくり」に向けての取り組みが前提です。現在では「高蔵寺まちづくり株式会社」、「NPO法人エキスパネット」「味美ネットワーク」「鳥居松商店街振興組合」などの組織が「地域活性化」を意識した活動で奮闘しています。行政は、こうした活動を支援するべく、住民の声をただ単に「聞き置く」「パフォーマンス」に終わらないように着実にアクションを起こしていただくことを望みたいものです。

（文責：河地 清）

第72回



ふ
る
さ
と

春日井学研究フォーラム

Forumテーマ：『ふるさと春日井のまちづくり』

—JR中央線高蔵寺駅前界隈の今昔—

「ふるさと春日井のまちづくり」をテーマとして、春日井市高蔵寺地域「中央線高蔵寺駅前界隈の今昔」地元古老人エピソード記憶による証言を聞き「まちづくり」の参考とする。

講 師：松本 孜 氏（元国鉄機関士）

日 時：2019年12月1日（日）午後1時30分～4時

場 所：市民活動支援センター（ささえ愛センター）

2階TEL：0568-56-1943（〒486-0837春日井市春見町3番地）

※（非会員の方のみ資料代500円当日徴収させて頂きます。）定員80名（定員で〆ります）

※申し込み 事務局：〒486-0825 春日井市中央通り2-9 TEL・FAX0568-82-5973 会長 河地 清

mail address:kawachi-k@mb.ccnw.ne.jpかすがい市民活動情報サイト：http://kasugai.genki365.net/



ふるさと春日井学検索